



可能性を求めて

「地理情報システム」を研究している

僕の専攻領域はGIS [Geographic Information System] です。これは「地理情報システム」と呼ばれ、コンピュータ上に地図情報をはじめ、さまざまな付加情報を持たせて作成・保存・利用・管理を可能とした状態を指します。ユーザーが必要に応じてデータを参照できるよう、表示や検索の機能を持たせています。

電子化のメリット

汎用性と実用性を高めてみたい

地域社会における安全・安心の確保向け、エリアごとの地理情報を電子化して活用を図っていく取り組みは、それほど普及例が多くありません。そこで、誰もが便利に使える汎用性に富み、所期の目的にかなうようなシステムを構築したいと考え、この領域を選びました。

システムの改善提案

道路網の安全と維持管理への貢献

岩手を広域的にカバーする「道路維持管理システム」。その運用データを分析、路線の維持管理における効率化、あるいは予防保全に役立つシステムを研究しています。修復・清掃・除雪作業などが、どこで多く発生しているかなどを捉え、システムの改善提案へつなげます。

まず現場を知る

フィールドワークが研究の基本だ

研究活動の深化へ向けて特に重視しているのは、たんなる理論や技術に偏ることなく、社会で発生する課題やニーズを実証的に把握していく問題発見のプロセスです。すべての基本はフィールドワークを重ね、利用者の視点に立って現場を詳しく知ることだと思います。

GISの活用と広がりをも、
利用者の視点で考える。

ソフトウェア情報学部 / 4年
小澤田 貴泰 [青森県立八戸東高校卒]

実践を意識して

メソッドと技術的な
対応法を習得

情報システムの構築例、その方法論などを学んだのが「情報システム演習A・B・C」です。卒業後の職業生活をイメージしながらの有益な時間でした。また問題解決の具体的なメソッド、技術的な対応方法を学んだ「ソフトウェア設計学」も実践的な内容に富んでいました。



未来像を想う

あまねく情報技術を広める人

ソフトウェアを用いて「こんなシステムを作れる」とか「こんなことが可能に」といった事例や技術的なポイントを学ぶのは刺激的な体験で、大いに役立ちます。大学で得た知見を活かし、多くの人が恩恵を受けられるようなシステムを構築するのが将来の僕のイメージです。

教員から
アドバイス

現場体験を重視する
一貫したスタンスに
真摯さを感じます。



阿部 昭博教授

GISは、地域の暮らしを支える情報基盤として、さらなるシステム導入が期待されます。小澤田君の研究は、さまざまな成果を地域へ還元できる有用性を強く帯びているので進展に注目しています。

ソフトウェア情報学部